

2πr通信 (2022年3月号) R4/3/12 海老名精神保健福祉促進会「2πr」

精神の病のため日々辛い思いをして暮らしている当事者も家族である親や兄弟も、まだまだ根強い周囲の偏見や差別の中で、地域の中で孤立しがちです。

治療については、お医者さんと良く意思疎通を図り、質問や希望を率直に伝えれば良いと思います。

私達家族の役割は「本人の生活のしづらさを軽減し、本人が地域で、主体的に自分らしく生きて行くための手伝いをする」ことだと思います。唯家族は「その思い」があってもノウハウを知りません。私は書物や講演会、家族SST等で本人への対処法を学び、1人で悩まず、市障がい福祉課や、相談支援事業所などに相談し、支援を求めたいと思います。

皆さんはどう思われますか。

(H. S)



[報告]

*2022,1/12(水)13:40～ あがむの会講演会 綾瀬市中央公民館 2πrより3名参加
「どう治すか」から「どう生きるか」の支援へ～精神疾患患者の「本音の希望」を見据えて～
講師: 伊勢田 堯 氏 元東京都立多摩精神保健福祉センター所長・医学博士・精神科医

*2022,2/4(金) 13:30～15:30 じんかれん研修会 ➡ コロナのため中止
みんなねっと「精神科医療への提言」について
講師: 全国保健福祉連合会・事務局長 小幡 恭弘氏

*R3年度福祉避難所訓練書面会議結果 ➡ 回覧で回します。

2月に訓練が予定されていましたがコロナのため中止となり、書面会議に変わりました。会議に先立ち各障がい者団体にアンケートが課され、メ切まであまり時間の余裕がなかったため役員で対応させていただきました。災害時の避難については重要なことなので家族会でも1度話し合わなければいけないと考えています。

[予定]:

*本日R4年度2πr役員・係の内定をしたいと思います。立候補をよろしくお願いします。

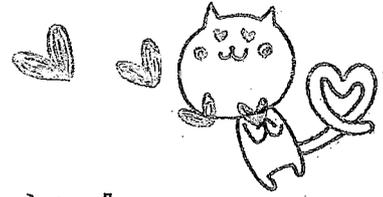
*3/19(土) つばさ精神保健ボランティア養成講座 福祉会館 ➡ コロナのため中止
Tさんがお話される時間帯は11:15～11:45です。

*5/14(土) 13:00～16:00 「5月定例会・R4定期総会」を行います。会費も集めますのでご持参ください。

次回R3年度,4月定例会は 4月9日(土) 13:00～16:00 福祉会館 第3会議室

人の迷惑を省みずにお届けしてます【気まぐれ刊】

シリーズ『ミスターXは考える』



(私(オヤジ)は気がついた!)

『好きにならなきゃ始まらない』

(そして息子(小X)を好きになれた?)

♪ 好きだった好きだった嘘じゃなかった好きだった ♪ 好きだからとてもとてもとても ♪ …好きになあつた人 ♪ etc と『好き』の出て来る流行歌は数多いが、その中で私は村田英雄の♪ 皆なの衆皆なの衆、好きと嫌いじゃ恋にはならぬ…に着目した。お断りするがカラオケ大会の曲目選びをしてるのではない。どうにかして息子(小X)との『関係修復』を図りたいと思案しての事だ。先日テレビを観てたら犬猿の仲の猿が犬の仔を育てていた。もっと驚いたのは猫と鼠が仲良くしていた。それを観て私は大いに感動したが反面で反省もした。何故私達(オヤジと息子)は親子ありながら仲が悪いのか? オヤジは一方向的に息子を嫌うし息子もオヤジを天敵の如く敬遠する。これではオヤジと息子は犬猫どころか鼠にも劣る事になる。そこで「関係修復」の道具(言葉)に『好き』を使って見ようと思った。『人(女性)が好き』『仕事が好き』『食べ物が好き』みんな「好き」からスタートしている。しかし行動を起こして間もなく私は「言うは易し行うは難し」の壁にブチ当たった。もう少しで70に手が届く私には「好き」という言葉は苦手だった。いや歳のせいではない。昔から日本男子? は好きだ! とか愛してる! は難儀な言葉の一つだ。当時洋画で男が女にいと簡単に『好きだ!(アイラブユー)』と言うのを観て聞いてそれだけで顔が火照った。現に私は妻にプロポーズする時に「好きです!」と言えずに『嫌いではありません!』と言って後悔した。そんなに難しい言葉(好き)だが、この言葉の力を借りるより他に私と息子の「関係修復」の手立ては無いと思った。早速息子の『好き(良い所)探し』を試みたが、それがなかなか見当たらず嫌いな所は山ほど目に付いた。(朝起きない、お金を使いすぎる、作業所を休む、薬を飲まない、下着を替えない、傘を忘れる、風呂に入らない etc) 矢張りダメか? と諦めかけたその時だった。次男が孫を連れて遊びに来た。♪ 何て可愛いだよ〜孫という名の宝物『これだ!』私の脳裏に稲妻が走った。息子の幼児期を思い出せばいい。息子は4人兄弟の総領として生まれた。凄く可愛かった。あの頃は『好き』が一杯あった筈だ。早速昔のアルバムを開いた。あつた! あつた! 涎掛けをして、オムツをして、ブランコに乗って…そこには『好き』が溢れていた。私がタイムスリップすればいい! そう思って息子と顔を合わせたが面と向かうと現実が勝った。仕方がないから息子と話す時は顔を背けて目をつぶり頭の中で『可愛かった幼児期』を思い出している。

(Tさんエッセイ集より)